

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢創造」の教育力と確かな進路実現力を持つリーディング工科高校

1. 創造力、表現力、コミュニケーション能力等を持った、社会に貢献できる「ものづくりリーダー」を育成する。
2. 活気ある学校生活を送る中で、自立心やたくましく生きる力を持つ生徒を育成する。
3. 生徒一人ひとりを大切にする教育活動と、規律ある安全・安心の学校づくりを推進するとともに、生徒が主体的に進路選択できるようキャリア教育を計画的に行い、進路実現を図る。
4. 地域の機関や企業等との連携を深め、地域に愛され、保護者や小中学校の信託に応えられる学校づくりに努める。

2 中期的目標 (H28-H30)

めざす学校像の実現に向け以下の取組みを行う。

1 「確かな学力」の育成

- (1) 知識・技能を習得し、それらの活用能力、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力等が身につくよう、授業の充実を図るとともに、課題研究の充実、部活動・行事・生徒自治会活動の活性化に取り組み、社会に貢献できる「ものづくりリーダー」を育成する。
 - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートの活用により授業改善に取り組み、授業の充実を図ることにより生徒の学力を向上する。
 - イ 家庭学習の習慣を各教科で検討し、学校教育自己診断で家庭学習時間1時間以上を60%以上にする。
 - ウ 部活動については生徒自治会と顧問を中心に活性化を図り、平成30年度には部活動加入率80%以上にする。
- (2) 専門性の深化と高等教育機関への接続に対応した教育内容が図れるよう編成作業を推進する。
 - ア 工学系大学進学専科の授業内容や取組みをより充実し、今後の進路実績を100%にする。
 - イ 全専門系において地域産業と大学との連携授業を取り入れる。
 - ウ 高度な資格や検定の取得の向上を図る。

2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ

- (1) 社会人基礎力を養うため、3年間を通した系統的なキャリア教育・進路指導を計画的に推進し、就職・進学ともに、生徒の進路実現100%をめざす。
 - ア 1年生からキャリア教育の充実を図り、2年生でのインターンシップ、3年生での企業実習等の充実を図る。
 - イ 企業訪問等を活性化して、適切な就職指導を実施する。また、進学(大学、高専)合格100%、就職一次内定率80%以上を維持する。離職率調査を実施し、その結果をキャリア教育・進路指導に活用する。
- (2) 全校的な人権尊重の教育を進めるとともに、授業を大切にし、規律ある学校生活ができるよう教員全員で指導にあたる。また、「いじめ」・「体罰」の無い学校づくりを推進する。
 - ア 首席を含め各学年団・分掌・教科・系の連携をより充実し、計画的に推進することで、留年者・中退者を2%以下にする。
 - イ 生活指導部を中心に全教職員で生徒の「基本的な生活習慣の確立」にあたる。「いじめ」の発生を防ぎ、懲戒事案の減少をめざす。

3 学校運営体制の確立と教職員の教育力向上

- (1) 教職員が情報や課題を共有するとともに、さらにスムーズに課題解決に取り組むことができる学校運営体制の確立に努める。
- (2) 豊かな経験を持つ教職員による研修や研究授業を推進するとともに、外部研修を積極的に推奨し、授業力・生徒指導力のある教職員の育成に努める。
- (3) 指導教諭を中心に実践的な研修計画を立てるとともに、各学年団・分掌・教科・系においてさらにOJTを推進する。

4 地域連携と安全で安心な学校づくり

- (1) 特別活動を中心に地域貢献を進め、地域産業との連携による企業実習・インターンシップなどキャリア教育の充実を図るとともに、専門高校としての特色ある教育内容について、広く府民への情報発信・PRに努める。
- (2) 教室・クラブ部室・更衣室・進学指導室の整備や学校周辺の環境改善等、生徒の学習環境の改善に向けた学校施設・設備の整備を計画的に進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見
○生徒用集計結果で肯定率の高いもの(80%以上)	第1回(7/11)
①「高校生活は、人間形成に大切な時期である」 85.2%	○進路指導について・・・企業見学や先輩の話を聞く機会など、仕事内容に関する情報を生徒に適切に与えることが必要である。これからも続けてもらいたい。
②「校内では、挨拶がかわされている」 83.5%	○学校PRについて・・・中学校の若い先生に工科高校の魅力伝えていくことが作戦的には大切である。高校卒業後の進路について、現状をよく知ってもらうような努力をすべき。
③「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」 83.1%	第2回(12/19)
④「この学校には、他の学校にない特色がある」 81.0%	○学習指導・・・飛翔教室(生徒の自学自習教室)は生徒にとってよい取り組みであるので、これからも続けてもらいたい
○生徒用集計結果で肯定率の低いもの(50%以下)	○生徒指導・・・アルバイトは基本的には家庭の問題と思うが、経済面や健康管理等のことも含め、学校から保護者へ理解を求めることも必要である。
①「将来の進路に不安はない」 43.5%	○進路指導について・・・生徒の人生設計に立った内容の授業(キャリアデザイン)をこれからも続けてもらいたい。大学の实習等では工科高校出身者がリーダーになることも多いと聞く。そういう意味でも意義があるので、進学について頑張ってもらいたい。
②「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」 43.5%	第3回(2/27開催予定)
③「校内では、清掃がいきとどいている」 46.6%	○合同課題研究発表会・・・どの班も課題研究の内容はたいへんよかったです。さらに、プレゼンのスキルを向上するとなお一層よくなると思います。この発表会の様子を、中学校の生徒、保護者等にビデオなどで見てもらうようにしたら、良いPRになるのでは。
【方針と対策】	
学校教育自己診断は、生徒・保護者・教職員の意識を把握・比較し、課題を明確し、PDCAサイクルで改善していくための重要なツールである。特に肯定率の低い項目について、課題を教職員全員が認識・共有することで、改善に向けて具体策を検討している。	
授業以外の学習時間が1時間未満の生徒が81.7%であることから、講習や家庭での学習習慣を身につけるような取組みを進めている。	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1) 基礎・基本の学力の定着 ア 授業見学週間と研究授業等を活用した授業改善 イ 家庭学習時間1時間以上 ウ 部活動の活性化 (2) 専門性の深化と大学への接続 ア 学力向上と工学系大学進学専科 イ 高大連携 ウ 高度な資格	(1) ア・授業見学週間(年4回)と研究授業の充実 イ・各教科で調べ学習と発表を推奨する。 ・外部テストの活用や講習の活性化、土曜講座(飛翔教室)の定着を図る。 ・全系合同課題研究成果発表会の実施 ウ・部活動や生徒自治会活動の充実を進め、高校生活を活気あるものにする。 (2) ア・外部テストの全校実施と学力向上への活用 ・工学系完成年度の取組みの充実 ・習熟度別学習の拡充 ・土曜講座(飛翔教室)の定着 イ・高大連携授業の実施 ウ・資格取得への組織的な取り組み ・ジュニアマイスター取得生徒の増加等	(1) ア・成績不振者を20%減 ・学校満足度80%以上 イ・家庭学習時間1時間以上の生徒を20%以上(H27年度15.6%) ・全系合同課題研究成果発表会生徒アンケート肯定率80%以上(H27年度87%) ウ・部活動加入率60%以上(H27年度52%) (2) ア・外部テスト結果C3以上 ・土曜講座実施回数年間20回以上 イ・全専門系が大学等と連携事業を実施 ウ・前年度の10%増加 ・ジュニアマイスター取得20名超(H27年度9名)	(1)ア・生徒向け学校教育自己診断「学校満足度」75.3%→77.0%。(○) ・授業見学週間年4回実施。(○) イ・生徒向け学校教育自己診断「家庭学習時間1時間以上」は18.3%(○) ・2/27合同課題研究成果発表会を実施。アンケート肯定率77.4%(○) ウ・部活動活性化に取り組み、1年加入率62%(全体54%)。(○) (2)ア・外部テスト全学年定期的に実施。結果概ねC3。(○) ・土曜講座11回実施。(△) イ・工学系で大学連携事業を増加(○) ウ・ジュニアマイスター3名(ゴールド1、シルバー2)、機械系技能検定2級3名・3級21名、電気工事士1種合格3人・2種合格率82.8%、建築施工管理技士試験合格34人など(○)
2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1) 社会人基礎力を養いキャリア教育の計画的推進 ア キャリア教育、インターンシップ、企業実習 イ 企業訪問・一次内定率 (2) 人権尊重 ア 人権教育 イ 基本的生活習慣	(1) ア・卒業生との連携による進路指導の充実 ・卒業生の離職調査を実施し、進路指導に活かす。 ・各学年団と進路指導部によるキャリア講演会、見学会、進路ガイダンスの充実 イ・企業訪問と求人情報等を収集する。 ・学力の向上と面接など事前指導の強化 (2) ア・課題のある生徒に適切な指導と支援を図るため、関係者による情報共有の場を設定 ・教職員人権研修の充実 イ・基本的な生活習慣をより一層定着させる。 ・おはよう運動の継続と強化 ・校内美化をより一層定着させる。	(1) ア・インターンシップ参加生徒数50名以上。(H27年度69名) ・就職・進学ともに進路決定率100%継続 イ・企業訪問等100社以上 ・面接指導等を強化し1次内定率80%以上を維持(H27年度83.5%) ・SPIテスト平均70以上をめざす(H27年度56.7) (2) ア・いじめ、体罰0 ・教職員人権研修2回以上実施 イ・遅刻を20%減 ・懲戒件数を20%減 ・学校教育自己診断で、「校内清掃がいきとどいている」肯定率60%以上	(1)ア・昨年を上回る699件831人(求人倍率4.4倍)の求人(○) ・インターンシップ参加36名(○) ・就職内定率100%(◎) ・進学現役合格100%(◎) ・3年前卒業生の離職率調査結果19.3%(◎) ・キャリア講演会4回実施(○) イ・企業訪問等100社以上(○) ・就職1次内定率84.3%(◎) ・3年6月SPI平均59.6(○) (2)ア・教職員人権研修2回(○) イ・朝の校門指導(おはよう運動)を強化し、遅刻5%減少(○) ・懲戒件数10件(H27年度3件)(△) ・生徒向け学校教育自己診断「校内清掃がいきとどいている」肯定率46.6%(前年度40.0%)(△)
3 教職員の教育力向上	(1) 学校運営体制の円滑化 (2) 校内で研修や研究授業を推進する。 (3) 研修計画の充実とOJTの推進	(1) 工学系完成年度の学校運営の円滑化 (2) ICT教材の活用や情報の共有化を図るため、ICT機器活用講習会を実施する。 (3) 新任教員及び経験年数の少ない教員の校内研修会を充実する。	(1)・工学系組織の確立と工学系授業等の円滑実施 ・進学指導室を本年度より設置し、定着を図る。 (2) ICT機器の増強とICT機器活用講習会を年2回実施する。 (3) 新任教員、経験年数の少ない教員及び講師等の校内研修会を年20回以上実施する。	(1)・工学系完成年度。工学系1期生は国公立大2名、大阪工業大10名合格等の進路実績をあげた(◎) ・進学指導室を設置し、進路指導をさらに充実。(◎) (2) プロジェクター等のICT機器の整備とICT活用研究授業の実施。(○) (3) 校内研修会を原則毎週1回実施。(◎)
4 安心な学校づくり	(1) 専門高校としての特色ある教育内容を、広く情報発信する。 (2) 学習環境の改善を計画的に進める	(1) 地域連携(地域貢献、ものづくり教室等)や中学校連携(生徒・教員訪問や進路広報等)を推進する。 ア・中学校教員向け説明会を開催する。 イ・1年生の出身中学校への訪問を実施する。 ウ・教職員で中学校への訪問を実施する エ・本校独自の説明会を実施する。 オ・各種説明会に参加をする。 カ・ホームページの充実、各種媒体による広報活動等により本校の教育実践を広く発信する。 (2) 学校の施設や設備を計画的に改善する。	(1) 志願倍率1.2倍以上(前年度総合募集0.93、工学系1.45) ア・中学校教員向け説明会を年に数回開催する。 イ・1年生の出身中学校訪問80人以上(H27年度65名) ウ・教職員の中学校訪問130校以上(H27年度129校) エ・学校独自説明会等5回(H27年度6回) オ・中学PTA主催等説明会年間20回以上に参加(H27年度19回) カ・ホームページを全面改訂する (2) 学校の施設や設備を可能な限り改善する。(H27年度ウォッシュレットトイレ、ドライミストの設置等)	(1)・志願倍率1.1倍(○) ア・中学校教員向け説明会を年5回実施。(◎) イ・1年生26名が夏休みを中心に出身中学校を訪問。(△) ウ・教職員で231校の中学校を訪問(○) エ・体験入学、学校見学会等6回(○) オ・合計26回の説明会を実施または参加して、延べ720名の中学生に説明することができた。(○) カ・学校HPの全面改定は検討中(△) (2) 施設や設備を可能な限り改善した。(○)